



「議会改革」への強い動きを受け「各常任委員会が積極的な活動を展開」

これまでの経過

登別市議会における議会改革に関しては、分権時代の改革への流れが加速する中、本年五月に検討会議が設置され、より具体的な提案の明示へ協議を重ねた結果「公聴会・参考人制度、フォーラムの開催」など十八項目を取りまとめました。その後、これら項目の確実な実施へ向け、義務化や制度化の方法などを協議する推進委員会を九月に設置し、具体的な実施内容として

- ◎本会議中継設備のリースでの十九年度予算要求
- ◎常任委員会の年度活動への制度組み入れの義務化
- ◎フォーラムについては毎年六月に開催する

などが示されました。今定例会では、定例会回数等を三回に減、議員定数の三人削減が議決され、議会改革が本格的に動き出したことを受け、各常任委員会においても、積極的な活動が開始されています。

総務・教育委員会

「モモンガくらぶ」と意見交換会を実施

総務・教育委員会は九月四日、ネイチャーセンター「ふおれすと鉦山」活動支援組織 NPO法人モモンガくらぶの松原理事長、荒川副理事長、吉本事務局長と活動と現状課題について意見交換会を行いました。



はじめに、二〇〇五年八月「NPO法人」として認可された経緯などについて説明がありました。その中で、松原理事長は「認可された時点での目標は、まず組織的に公にして透明度を高め、市民の皆さんにどう貢献していくか意識した活動をしてきた」

「現在会員は百五十四名で質の高い活動が展開されている」さらに「いろいろな人たちとネットワークづくりをしていきたい」と述べ

られた。

各委員からは「登別市や他の団体との連携は」「事業を進めていく上でお金がかかると思うがどうしているのか」「質の高い活動を今後どう維持していくのか」などの発言があり、和やかなうちに意見交換会を終了しました。

感想・子どもから高齢者や障がい者まで安心して参加できることや事業内容もオールシーズンで自然体験活動・クラフト・草木染など幅広く展開し、広く社会教育活動に大きく寄与している。

モモンガくらぶのさらなる事業展開に期待していきたい。

生活・福祉委員会

「通所授産施設を誘致する会」と意見交換会を実施

「登別市に通所授産施設を誘致する会」（吉野良子代表）と生活・福祉委員会との意見交換会が、十月三日午後六時半から市役所本庁舎で開催されました。

委員会からは八名の出席、誘致する会からは十五名の会員に出席をいただきました。

誘致する会は、登別市の七つの障がい者団体で平成十五年に結成され、現在その誘致に向けて市側と協議が進められています。

意見交換会は、「会の授産施設誘致に対する考え方」と「障害者自立支援法施行後の障がい者の状況」が中心テーマでした。

会の代表者から経過や活動内容の説明の後、質疑・意見交換が行われました。



開催時間が夕刻遅くからということ、十分な意見交換ができませんでしたが、障がい者の自立には、数多くの問題や課題が山積しているということだけは、出席した方々の共通の認識となりました。

「通所授産施設」の早期実現と障がい者の幸せを願いながら有意義な意見交換会を終了しました。